



保全優先地域

Spatial conservation priority



東アジア島嶼の日本には多くの固有種が分布し、その生物相が様々な社会経済活動の脅威にさらされています。地域固有の生物相を保全するためには、生物多様性を含む生態系の価値と機能を評価し、保護区の設置や土地の利用規制を行うことが有効です。生物多様性条約の愛知目標は、実効性のある保護区を世界の陸域の少なくとも17%に拡張すること、脆弱な生態系を保全すること、絶滅危惧種の絶滅・減少を防止すること等を掲げています。しかし、日本の場合、国際的基準で保全実効性のあるエリア（人的活動が厳正に規制された自然公園や自然保護区）は国土の2-11%に過ぎず、場所ごとの風致性、植生タイプ、土地の利用履歴などの観点から保護区指定が行われてきた経緯があります。したがって、生物多様性や生態系や希少種の保全効果が十分に担保されておらず、科学的根拠に基づいて保護区ネットワークの空間デザインを再検討することが課題となっています。

本ウェブシステムでは、現行の自然保護区の指定状況と、高解像度の生物分布情報に基づいて特定した保全優先地域を地図化しました。

■ 関連リンク ■

Kusumoto B., Shiono T., Konoshima M., Yoshimoto A., Tanaka T., Kubota Y. (2017) How well are biodiversity drivers reflected in protected areas? A representativeness assessment of the geohistorical gradients that shaped endemic flora in Japan. *Ecological Research*, 32: 299-311
<https://esj-journals.onlinelibrary.wiley.com/doi/epdf/10.1007/s11284-017-1451-6>

Lehtomäki J., Kusumoto B., Shiono T., Tanaka T., Kubota Y., Moilanen A. (2018) Spatial conservation prioritization for the East Asian islands: A balanced representation of multitaxon biogeography in a protected area network. *Diversity and distributions*, 25: 414-429
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/ddi.12869>

Zonation algorithm and software
https://www.fwspubs.org/doi/suppl/10.3996/062016-JFWM-044/suppl_file/fwma-08-01-28_reference+s06.pdf

久保田 康裕, 楠本 聞太郎, 藤沼 潤一, 塩野 貴之 (2017) 生物多様性の保全科学：システム化保全計画の概念と手法の概要. *日本生態学会誌* 67: 267-286
https://www.jstage.jst.go.jp/article/seitai/67/3/67_267/_pdf

久保田 康裕, 楠本 聞太郎, 藤沼 潤一, 塩野 貴之, 鈴木 亮, 福島 新, 小澤 宏之, 宮良 工 (2019) 生物多様性地域戦略を空間的保全優先度分析で具現化する：沖縄県の生物多様性保全利用指針 OKINAWA 作成の事例. *日本生態学会誌* 69: 239-250
https://www.jstage.jst.go.jp/article/seitai/69/3/69_239/_pdf/-char/ja

Zonation algorithm and software
https://www.fwspubs.org/doi/suppl/10.3996/062016-JFWM-044/suppl_file/fwma-08-01-28_reference+s06.pdf

